

芽高新聞

再刊320号

北海道芽室高等学校

新聞局

河西郡芽室町東めむろ

1条北1丁目6

発行責任者

五十嵐 千歳

思いを胸に新天地へ

10名の職員が離任・退職

3月末、10名の教職員が芽室高校を去った。そこで今回はその10名に芽高での思い出を振り返ってもらった。

目標を高く持って

土屋亮校長先生は、平成29年に赴任し、この度、定年退職を迎えた。「単身赴任を終えて、8年ぶりに自宅で過ごす」と語る。また、芽高での思い出は「努力をして進路活動をする人を沢山見てきたこと」とのこと。そして、「今まで勤務してきた中で芽高は最も穏やかな学校。もう少し芽高で過ごしたかった」と名残惜しそうに語った。最後に芽高生へ「皆さんの中には大きな能力が眠っています。程々で満足せず、目標を高く持つて下さい。Never Give Up!」とメッセージをくれた。

(五十嵐)



土屋亮校長 先生

可能性を磨いて前向きに

伊藤智昭先生は平成22年に赴任。10年間勤務し、この度帯広三条高校に異動した。担当教科は数学、部活動は吹奏楽部とサッカー部だった。芽高の思い出は「3回卒業生を出したことと初めてサッカーに触れ、審判をしたこと」と語る。そして「熱心に授業を聞いてくれて幸せだった」と感謝を述べる一方で「多忙でありあまり会話ができませんでした」とも。最後に芽高生へ「みんなは可能性を秘めているダイヤの原石みたいなもの。きちんと磨けば必ず輝く! ネガティブ思考はやめて、前向きに頑張ろう!」とメッセージをくれた。

(五十嵐)



伊藤智昭 先生

思い出が沢山の4年間

石川洋介先生は、平成28年に芽室高校に赴任、4年間勤務した。そしてこの度、オホーツク管内の留辺蘂高校に異動となった。担当教科は国語と書道、部活動は書道部と山岳部だった。

芽高の思い出を「合唱祭や体育大会、登山や書道部合宿、サッカー部の男子からのいじりなど、沢山」と答えた。そして「生徒に恵まれ、楽しい4年間を送れました」と語る。

最後に芽高生へ「卒業時に後悔しないよう、何事にも精一杯挑戦してください! お元気で!」とメッセージを残した。

(小川)



石川洋介 先生

14年間の生徒達との思い出

山本圭一先生は平成18年に赴任し、14年間勤務した。担当教科は理科で、部活動は放送局だった。そしてこの度、帯広農業高校に異動となった。新天地では「野菜と仲良くする」と意気込む。

芽高での思い出は、「学祭時期に(カウントダウンビデオの作業で)多くの3年生と関わったこと。チーム長などが互いに励まし合っていた」と語る。また、「授業や休み時間の生徒との会話が楽しかった」という。最後に芽高生へ「母校が好きになれる学校生活にしてください!」という思いを残した。

(五十嵐)



山本圭一 先生

読書で世界を広げて

木村賢司先生は、平成29年に芽室高校に赴任し、3年間勤務した。今後は、自宅のある苫小牧にて、時間講師を行う。担当教科は数学、部活動はソフトテニス部だった。芽高での思い出を「部活で部員とゲームをしたこと。『勝てる!』と思ったが足が動かず、ミスも多く歯が立たなかった。この時ばかりは歳を感じた」と振り返る。

最後に芽高生へ「読書を読めば、世界を広げることができるので、本を読みましよう。サムエル・ウルマンの『青春』がおすすめ」と絡めた。

(小川)



木村賢司 先生

凛と、そして柳のように

佐々木紫織先生は平成24年に芽室高校に赴任、8年間勤務し、この度、定年退職を迎えた。養護教諭として、主に保健室で生徒の対応にあたり、茶道部の顧問も務めた。

芽高での思い出は「保健室でみんなと色々なお話をしたこと。また、赴任した年に新聞局とボランティア部、その後茶道部と、今まで知らなかった経験したことのない世界に関わったこと」と語る。

最後に芽高生へ、「何かあった時、頭だけで考えて決めないで、身体の声、心の声も大切に! 凛としてかつ柳のようにしなやかな素敵な大人になってください!」とメッセージをくれた。

(小川)



佐々木紫織 先生

自律できる人間に

菊地恵先生は平成27年に芽室高校に赴任し、5年間勤務した。そしてこの度、定年退職を迎えた。

担当は理科の実験や家庭科の実習等を行い、部活動は茶道部と放送局だった。

芽高での思い出は「北海道胆振東部地震によるブラックアウトとコロナウイルスによる臨時休校」と語る。芽高の生活については「いつも穏やかな気持ちで過ごせました」とのことだ。また、「年を取ったせいかわ、みんなが子どものような気持ちだった」そうだ。

最後に芽高生へ「自分の健康は自分で守る。自律できる人間になってください」とメッセージをくれた。(戸塚)



菊地恵 先生

親への感謝を忘れず

遠藤亘事務長は平成30年に芽室高校に赴任、2年間勤務し、この度、日高管内にある静内高校に転動した。

芽高での思い出は昨年の「70周年記念事業」だそう。そして芽高での生活については「とても楽しく過ごすことができました」と語る。

最後に、芽高生へ向けて「努力を惜しまず、親への感謝を忘れず、悔いのない高校生活になるよう祈っています!」とメッセージを残した。(戸塚)



遠藤亘 事務長

置かれた場所で咲こう

黒沢悟さんは、平成31年に赴任し、この度3月で退職した。

芽高での思い出は「着任まもなくプール床下のビット内に潜っていたら喉が雑菌でおかしくなりそうになってしまったこと」だそう。また、嬉しいこととして「公務員生活を通じて初めて持ち家から通勤できたこと」を挙げた。最後に芽高生へ「学校生活や日常生活の中で常に「置かれた場所で咲ける」よう、努力を惜しまず夢が実現することを願っています」と、エールをくれた。(奥山)



黒沢悟 主任主事

夢を抱いたらまっしぐら

五十嵐文雄さんは、平成31年に赴任し、この度3月で退職した。なお、「退職後は何か習い事をしたい」とのこと。

芽高の思い出は「通勤の際、道路の両側で四季折々の農作物が色彩を放つのを眺めていたこと。また、生徒も、先生も、良い人達で最高の時間でした」と語る。

最後に芽高生へ「大震災、気候変動、パンデミック...未曾有の事象の起る世紀に生きる皆さんに躊躇している暇はなし。夢を抱いたらまっしぐらに進んでください」とメッセージをくれた。(奥山)



五十嵐文雄 主任主事

新型コロナウイルスの影響芽高にも不安な中で分散登校実施

3月2日から全道の高校は臨時休校となったが、3月23日と24日に分散登校が実施された。



間隔を空けて登校する生徒

新型コロナウイルスの影響拡大予防のため、全道の公立学校は約1ヶ月の臨時休校となった。そして芽室高校は3月23日に2年生が、24日に1年生が分散登校を行った。この期間について木南陽生さん(3C)は「自宅学習をしながら、後輩

局説コロナよりも恐ろしいデマ

ツイッター上のあの投稿が世間に波紋を及ぼした。それは、「コロナウイルスの影響で中国が生産元であるトイレットペーパーとティッシュペーパーが品薄になる」という趣旨の投稿だ。しかし、日本で販売されているものは99%が国産で、かつメーカーが「在庫は十分ある」と否定。この投稿がデマだと明らかになった。

その投稿の影響からか、全国でトイレットペーパーやティッシュペーパーの買い占めが起り、品薄状態が続いた。このことから、SNSの力は私たちが思っているよりも強いことが求められる。

また、デマを流した人物の名前や顔写真、勤務先等が特定され、ネット上に公開されてしまうことも後を絶たない。ネットの恐ろしさを痛感すると同時に、見る側は、これは正しい根拠のある情報なのかを冷静に見極める力が求められ、投稿する側は、責任を持って投稿することが求められる。

編集後記

コロナウイルスの影響で、約1ヶ月臨時休校が続きました。しかし、このような状況でも、離任された先生方のコメントを読者の皆さんに届けたい!そこで今回の新聞は今流行りの「?」テレワークで作成しました。いかがでしたでしょうか。皆さん、コロナに負けず、手洗いうがい徹底して健康を維持しましょう!(五十嵐)

局長 五十嵐千歳(3A)
副局長 小川 結衣(3C)
顧問 戸塚 智恵(3D)
石森由香利(2D)
横濱 優子